



おぐら
尾倉

<校訓>
自主
創造
協力



令和4年9月26日(月)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

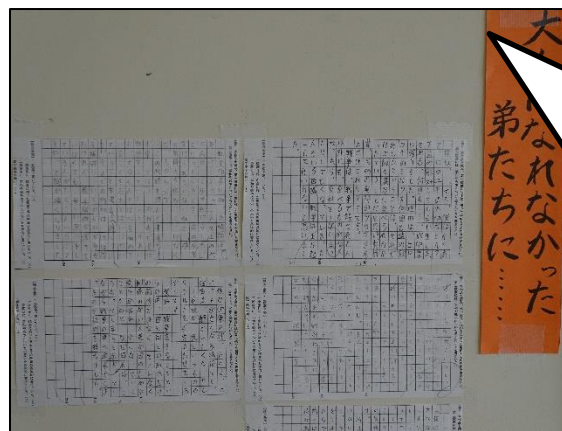
<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

尾倉中「学びの足跡③」～学習の積み重ね～

「学びの足跡②」を紹介します。尾倉中学校では、学習したことや成果物、コンクール結果等を「学びの足跡」として掲示しています。作品や学習内容を掲示することで、次時の初めに前時の学習を振り返ることができるようにするためです。生徒のみなさんも、時間があるときは教室や廊下の学習内容を友だちや先生と一緒に確認してみましょう。

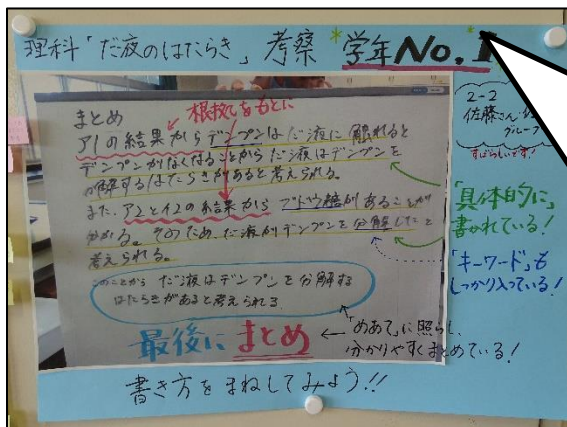
学習環境の整備とは、教室環境を整理整頓するだけではなく、学習のねらいを意識し、子どもが自分から興味をもって学習に取り組むことができるように環境を整えることです。その意味で、尾倉中の生徒の成果物の掲示には意味があるのです。



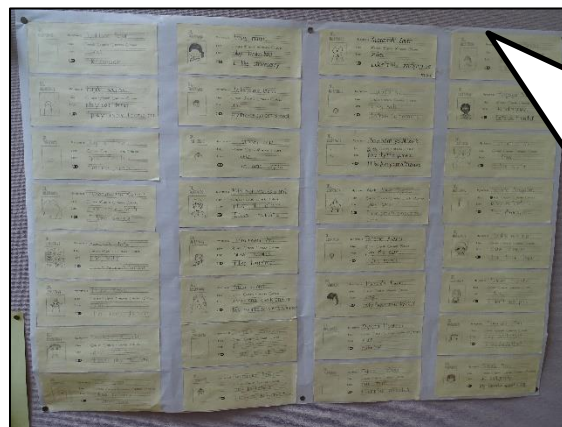
中学1年の国語で学習する米倉齊加年さんの「大人になれなかった弟たちに…」についての感想です。「この物語を読んで、やはりこの日本で昔は戦争をしていたこと、それによって今も人々は心を痛めていることを忘れてはいけないということを考えました。(中略)原子爆弾が落ちていなくても苦しい思いをしている人がたくさんいることを知って胸が痛くなりました。」よく考えています!



美術科の栗田先生の作品です。俵屋宗達「鶯の細道図」のアレンジです。栗田先生は、このように定期的に掲示物をかえてくださっています。原画は、現代の作品と言われても納得してしまいそうなデザイン性をもち合わせ、奇跡的な作品だといわれています。『伊勢物語』の「東下り」で主人公・在原業平一行が、駿河国(現在の静岡県)の宇津山を越える場面を描いたものです。



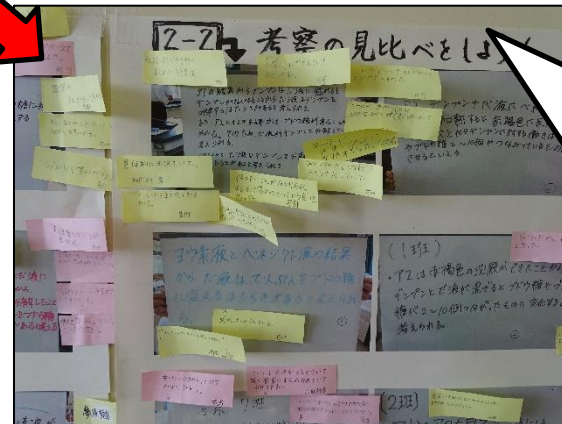
2年生理科「だ液のはたらき」の考察です。学年No.1の考察です。「具体的に」「キーワードを入れて」「めあてに照らして分かりやすく」まとめているそうです(先生は理科は苦手なので...) 学ぶという意味は「弟子が師をまねて教養や技術などをみにつける」ことで、もとは「まねする」ことから始まるということらしいです。みなさんも、いい考察は「まねて」みましょう。



1年生の英語科「自己紹介」です。小学校の内容の延長になります。「My name is ~. I like music. I can play the piano. I like tennis.」などのように表現できます。小学校の内容の復習として、「I played tennis with my friend yesterday./ I played tennis at school.」などを付け加えらるともっといいでしょう。アウトプットを大切にしましょう。



図書室前の掲示板です。クイズ形式でSDGsについて学ぶことができます。尾倉中学校はSDGs推進校、ユネスコスクールに指定されています。自分が興味ある内容について、図書室で調べてみるのもいいかもしれません。北九州市は、2018年6月、全国で初めての「SDGs 未来都市」及び「自治体 SDGs モデル事業」に、他の28自治体とともに選定されました。



2年生理科の考察に対するコメントを付箋紙に書いて貼っています。付箋紙の活用は多くの教科で取り入れています。お互いの考察を評価し合うことで、より良い考察へと高めることができると考えます。このような時は、得てして、よいことばかり書きがちですが、お互いを高めるために「～したほうがいいよ」「～したらもっとよくなるよ」などのアドバイスも入れるといいと思います。